

婦中地域

まちづくりと公共施設の 「これから」を考えるワークショップ

7月19日（日）に
開催しました第1回
ワークショップについて
お知らせします！

本市では、人口減少と超高齢社会の本格的な到来に伴い、今後ますます財政状況が厳しくなることが予想されており、このまますべての公共施設を維持し続けることは明らかに困難な状況となっています。

こうしたことから、限られた財源の中で、将来にわたって公共施設の適切な維持管理を行うため、施設の再編など「公共施設マネジメント」の取り組みを進めていますが、施設の再編については地域の皆様には様々な想いやご意見があることも承知しておりますので、地域の皆様のご意見を踏まえ、計画を策定していきます。

今年度は、婦中地域・山田地域の公共施設のあり方について、地域にお住まいの皆様と富山市がともに考えるワークショップを開催し、このワークショップで出たご意見や地域の実情などを受け止め、「地域別実行計画」（次ページ参照）の策定に反映させるとともに、地域の皆様が住み続けたいまちづくりを進めていきたいと考えております。

こちらの「ニュースレター」は、ワークショップで検討されている内容をお知らせするとともに、広く地域にお住まいの皆様のご意見を募集するため、お配りするものです。

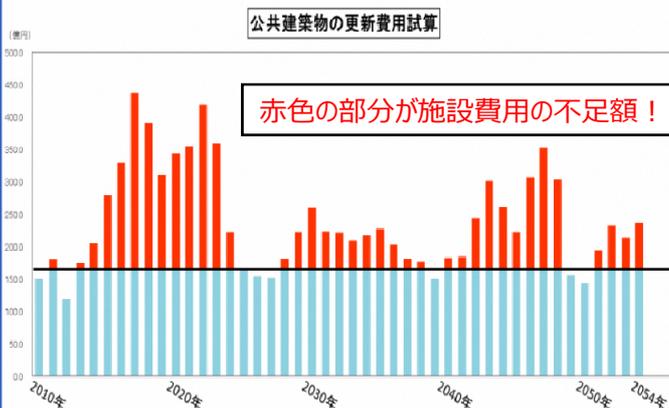
富山市における公共施設の現状と課題

◆ 公共施設の老朽化

富山市の公共施設の築年別整備面積を見ると、全体の40%がすでに建築後30年以上経過しています。

これらの築30年を超える建物は今後、大規模修繕や建替えが必要となり、多額の費用が必要となることが想定されます。

今ある公共施設をこのままの規模で維持すると、今後40年間で約3,300億円、年平均82.5億円が不足すると見込まれます。

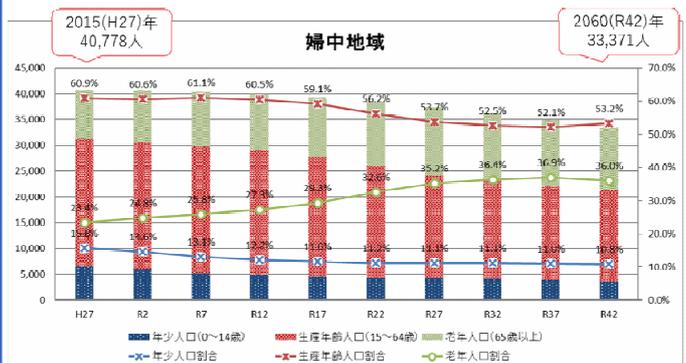


※横線は直近の公共施設への投資額の平均
※出典：富山市公共施設等総合管理計画

◆ 人口減少による施設ニーズの変化

富山市の人口は、令和42年（2060年）には、現在から10万人以上減少し、約302,000人になると推計されています。

なお、婦中地域では、令和42年（2060年）には、現在の人口の5分の1程度が減少し、33,371人となるとともに、約3人に1人が65歳以上の高齢者になると推計されています。人口減少、そして少子高齢化の進行により、公共施設へのニーズが変化するとともに、市税などが減収し、公共施設にかけられる費用はますます減少することが見込まれます。



※出典：富山市公共施設マネジメントアクションプラン戦略編（平成30年3月作成）

地域別実行計画の策定

地域別実行計画は、「富山市公共施設マネジメントアクションプラン」に基づき、地域の課題や特徴、まちづくりなど、地域の実情やニーズを踏まえ、公共施設の再編に向けた方針を定めるものです。

地域別実行計画は、「地域の将来的な公共施設の再編方針」と「優先して取り組むべき個別具体施設の整備方針」で構成されます。

地域別実行計画

地域の将来的な公共施設の再編方針

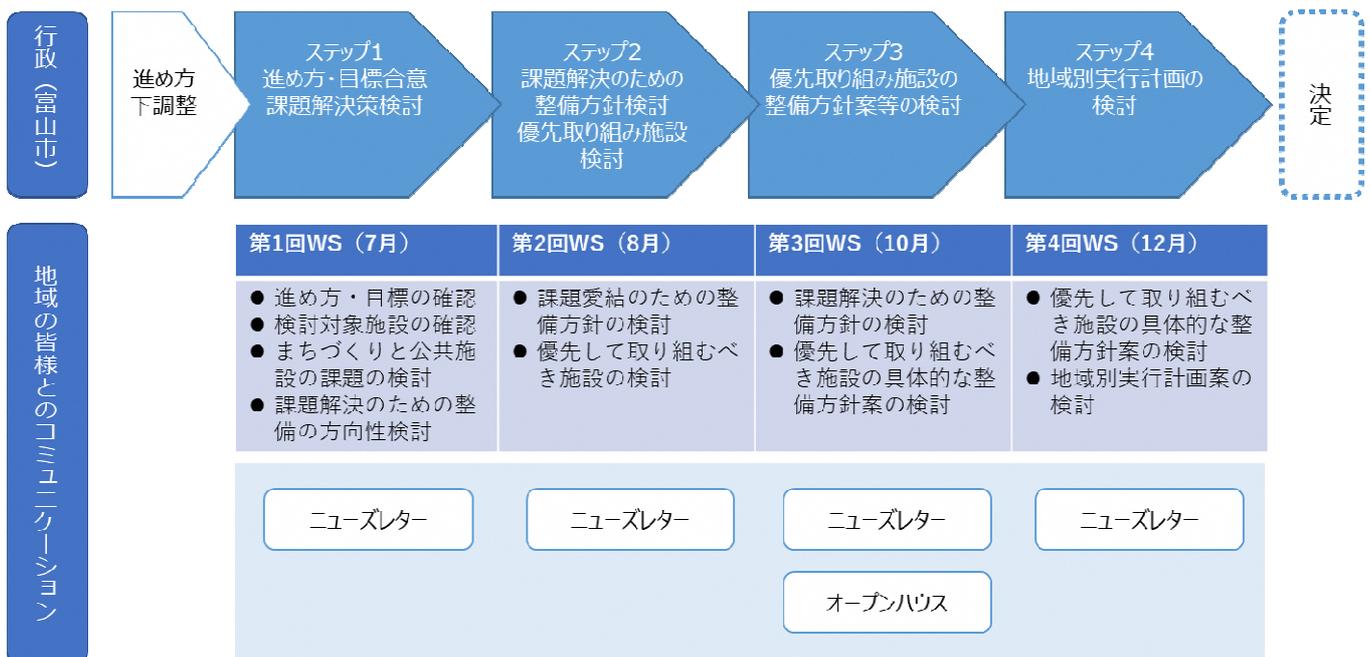
施設の用途別に、5～20年を目途とした中長期的な取り組み及び5年を目途とした短期的な取り組みを進めるための整備方針を定めます。

優先して取り組むべき個別具体施設の整備方針

地域の公共施設の中でも特に課題が大きい施設を選定し、5年以内の実現を目指すための整備方針を定めます。

ワークショップの流れ（予定）

R2 7月～12月



オープンハウス：住民の皆様が集まる施設などで行うパネル展示型説明会です。ここでもご意見をお聴きします。

婦中地域 第1回ワークショップが開催されました

7月19日（日）、婦中ふれあい館にて、「婦中地域 第1回まちづくりと公共施設の「これから」を考えるワークショップ」が開催され、婦中地域にお住まいの38名の方が参加され、活発な意見交換が行われました。ワークショップでは、一部リモートでの対応や参加者同士の間隔を空けるなど、新型コロナウイルス感染対策にも十分配慮しながら実施しました。

今回のワークショップでは、3つのグループに分かれ、ワークショップの進め方の確認と、婦中地域のまちづくりや公共施設の現状と今後について課題だと感じていることについての議論が行われました。最後には全体で議論した内容を共有し、第1回のワークショップを終えました。



第1回ワークショップの様子

第1回ワークショップで皆様からいただいたご意見

◆ 計画検討やワークショップの進め方について

■ 地域別実行計画の考え方や検討の進め方

● 公共施設再編の必要性

- 婦中地域の人口は増えており、他の地域と比較して施設が多いわけでもない。現在ある施設は必要最低限のものだと思うので、短期的に見て統廃合すべき施設があるとは思えない。
- 施設が集中している速星地区や鶴坂地区では人口が増えているが、他の地区では人口が頭打ちで施設が少ない状況だ。人口が多い地区と同じ様に比べられて、統廃合されると困る。
- 公共施設に多くのコストがかかっていることを今回の説明で初めて知った。公共施設再編を考える必要があると思う。

● 検討の進め方

- 富山市内の各地域で役割が異なると思うので、人口の増えている婦中地域はその状況を踏まえて、婦中ならではの方向性を考えるべきだと思う。
- コスト削減の必要があるならば、施設を減らすのではなく大規模な施設のコストを下げ、今ある施設は維持することを考えた方が良いのではないか。
- 利用率が少なくても地区にとっては重要で不可欠な施設があるので、まず地区ごとに最低限必要な施設と地域全体に必要な施設を分けて各々で検討する必要があると思う。
- 婦中地域内でも川や山を越えると状況が大きく変わるので、地理的状況を踏まえるべきだろう。
- 小学校区ごとに検討するのではなく婦中地域全体で考えていきたい。

■ ワークショップの進め方

- 婦中地域は人口が増えている地域なのだから、施設を減らす方向の議論だけでなく既存施設の活用やサービスの充実、利用率向上の方法といった議論もすべきだろう。公共施設の数が減っても機能は維持できるようにしたい。
- ワークショップの目的や議論の進め方を明確にしないと議論がぼろけてしまう。削減するのは施設数なのか、面積なのか、コストなのか、各回で何をどう検討するかなど、具体的に説明してほしい。
- 公共施設全般の課題を聞かれるより、個別の施設についての具体的な課題の方が発言しやすい。
- 小学校と公民館を他の施設と並べて減らせるか検討するのは納得がいかない。小学校や公民館を利用して思い入れのある人はたくさんいるのだから、ワークショップの様な参加者が限定されている場で削減の有無についての議論はできないと思う。もっと多くの人の意見を聞くべきではないか。
- 小学校の統廃合についてはこのワークショップとは別の場で検討を進めていると新聞に出ていたが、そこでの検討とワークショップとはどのような関係にあるのか知りたい。

◆ まちづくりの現状と課題

■ 人口問題

- 地域内に人口が増えている地区と減っている地区があるが、子どもの数が増える策を考えて地域全体を活性化すると共に、双方が支えあって暮らしていくことが大切だと思う。人口が減少している地区の施設を減らす方向にはしたくない。

■ 施設配置

- 地区によって人口の増えているところと減っているところがあるので、施設配置がアンバランスになっている。このままでは公共施設がないことが更に過疎化を加速させてしまう地区がある一方で、人が増えている地区ではさらに施設や駐車場が必要になり、格差が広がってしまう。地域全体として対策を考えたい。
- 商業施設、行政関係施設、文化施設が点在していて婦中地域の中心がどこなのか不明確だと思う。地域の中心をどこに設定するのかも含めてまちづくりの方向性を議論していきたい。

■ 地区の一体化

- 宮川地区、熊野地区ともにスーパーや老人ホーム、郵便局があり、住みやすい地域となった。宮川地区の一部の集落では、2、3年で急激に軒数が増えた。それにより子どもたちが増え、集落の活性化に繋がっている。
- 宮野地区が合併してから50年経過したが、小学校は1つになったものの公民館は変わらず2つある。様々な組織も宮川地区と熊野地区で2つ存続していることが多い。今度保育所が合併することになったが、それが合併前の地区の枠を超えて、地域を一体的に考える良い機会になると良い。小学校区として地域をいかに1つにしていくかが課題だと考えている。

■ 交通アクセス

- 今後高齢化がますます進むと思うので、中山間地から施設の集中している速星地区へのアクセスなど、婦中地域内の交通アクセスを考えてほしい。
- 神保地区は車を持っていない高齢者にとっては交通の便は良くない。
- 各地区の老人会で幼稚園児との世代間交流会を行っている。各地区の報告を聞いていると、相当数の高齢者が参加をしている。そういう場が地区にとっては大切だが、活動場所まで行く交通手段がなくなってきた。
- コミュニティバスが自主運行になり減便になっている。今までの利用者から不便になったと聞いている。交通アクセスを充実させるとするのは課題だと思う。
- 駅を使う際に利用できる駐車場が少なく不便を感じている。

■ 防災

- 気候変動の影響などもあり防災への関心が高まっていると思う。婦中地域にはこれまでに河川氾濫の被害を受けた地区や5mの浸水が想定されている地区があるので、水害が起きた際に対応できる様に新たな避難所を設けたり、水に強い避難所を整備する必要がある。

■ コミュニティ

- 住宅団地ができて人口が増え、子どもも多い地域だ。子どもは地域の小学校に通って地域に密着しているが、親世代などの若い世代は地域外に働きに行き、地域との関係性が薄く、公共施設を利用していない。昼間地域にいないこともあって、世代間で施設の利用率の偏りがある。世代によっては利用していないのが課題ではないか。
- 子育て世代は婦中地域に詳しくなく、興味が無い人もいる。

◆ 公共施設の現状と課題

■ 公共施設全般

● 地域の現状

- 住宅団地が出来ており、それほど住民が減っている地域ではない。商業施設がぼつぼつと増えてきており、住民としては利用する施設が充実している地域ではないかと思う。
- 宮川地区、古里地区、神保地区は八尾地域と近いこともあり、八尾地域の施設に行くことが多い。

● 残してほしい施設

- 小学校や公民館は自治の中心を担っている施設のため、絶対に残してほしいと考えている。一地区一公民館、一地区一小学校というのは外してはならない基準だと思う。

● 不足している施設

- 地区によっては子ども達の遊び場がないので、道路で遊んでしまうことがあり危ない。速星地区には児童館やスポーツプラザなどの施設があるが、その他の地区では施設の空きスペースを活用できるようにしたら良い。
- 中山間地は周辺に公共施設がほとんどない。高齢の方は交流センターをよく使うが、今回のコロナのために使える施設がない。
- 住んでいる人が高齢化してきているので、高齢者にとって使いやすい施設を考える必要があるのではないか。

■ 公共施設全般

● 利用率

- 利用手続きの簡素化、利用条件の緩和などを行えば、利用率を上げることはできるのではないかと。各施設の設備、部屋の大きさや定員、申込方法などの利用に関する情報をweb等でわかりやすく発信するなど工夫をした上で利用率が改善しなかったら、再編を検討してはどうか。
- 公民館は稼働率が悪いというが、使う時間帯が一緒に、利用申込が重なってしまうので使えないことも起きている。
- 学校や自治会の公民館の集会室などを開放して利用しやすくする施策に取り組むことも1つの方法だと思ふ。
- 関係人口を増やしていくという流れが出てきている。居住地ではない地区のお祭りに手伝いに行くといった、自分の住む地区以外との関わりを持つ人が増えることで、地区に活気が生まれることもあると思う。
- 婦中地域では住宅が増え、若い世代の親が増えてきている。若い世代が使いやすい施設になると利用率も上がるのではないかと。

■ 集会施設

- 高齢者にとって自宅から近い所に集いの場があることは大切だ。利用人数が少ないから廃止できるものではないと思う。8地区全ての公民館を維持したい。
- 公民館にはコミュニティセンターなどの機能も入っている。一般的な公民館と同じように統廃合の議論を進めて良いものなのか。公民館に他の機能も入れることになった経緯等も確認した上で検討を進めた方が良さそう。
- 小学校が統合されて7つになった経過もあるので、集会施設を小学校区に1つにすることが絶対できないということはないと思う。すぐにとっわけではないが、将来的には集会施設を集約する選択肢もあると思う。
- 音川公民館や宮川公民館の利用人数は少ないが、そもそも人口も少ない。速星公民館の利用人数は多いが、地区外の人も多く利用している。婦中地域全体で利用されている公民館と特定の地区住民のための公民館とでは利用者の範囲が異なるのだから、利用人数を比較して廃止の判断をするのはおかしい。

■ 文化施設

- 婦中ふれあい館の周辺は施設が充実しており、稼働率は高い。駐車場はいつも混んでおり、大きなイベントがあると満車で使えないこともある。
- 婦中ふれあい館は使いたい日に予約ができないことがある。

■ 図書館・博物館等

- 安田城跡ガイダンス施設のように利用者が少なかったり、その場所になければならぬ理由があまりない施設は、他の施設に集約してはどうか。
- 鵜坂資料保管庫や婦中埋蔵文化財収蔵庫は、市民が利用する施設ではない。婦中行政サービスセンターの空きスペースを活用するなどできないのか。

■ スポーツ施設

- スポーツ施設は人口の多い地区に集中しているので、人口の少ない地区からの利便性を考え、アクセスを良くしたらどうか。
- 婦中体育館はトレーニング器具などの設備はあるが、指導者がいない。指導スタッフの育成を図れば利用率も上がると思う。
- 婦中スポーツプラザプールは、屋根の開閉が出来なくなっているし、利用者も少ない。子どもたちは学校のプールを利用することが多い。夏場だけなので利用できる期間が短い。

■ 学校・保育所・児童館等

● 学校

- 学校は地域の中核となる施設であり災害時の避難所にもなっているので、活性化や防災を踏まえ、児童、生徒数が減少したとしても維持したい。
- 地域住民が小、中学校を利用できるようにしてもらいたい。最近では地域行事等で使えないので地域力が下がっている。小学校のグラウンドのように広い場所が地域のお祭りに使えると良い。一方で、安全性をどのように確保するのかという部分が少し心配なのでセキュリティ対策も考えられると良い。

● 保育所

- この先地域に家を建て、移り住んでくるのは30～40代の共働き世代が多いと思うので、地域内の保育所はできるだけ維持したい。
- 利用者数の少ない保育所の民営化は難しいのではないかと。

● 児童館・子育て施設

- 来年から児童館の時間が短縮されると稼働率が下がるのではないかと。時間の短縮と稼働率の低下が悪循環になっていくことを懸念している。
- 新型コロナウイルス感染症の自粛生活で子どもたちが学童保育に行けなくなった。今後、児童館の利用の仕方も変わってくるのではないかと。
- 昔は下校後に友達の家で遊ぶことが当たり前だったが、共働き世代が増え、家で遊ぶことが難しくなった。完全下校の時間も決まっているため、学校で遊ぶことも難しい。学校と家を繋ぐような施設があると良い。
- 小さい子どもが集まれる支援センターを児童館や公民館を上手に使って整備できると良い。とやま駅南図書館（ぶらり）・こども図書館のような、子ども一人で利用ができ、親同士の交流の場となる施設が理想的だ。

■ 庁舎等

- 婦中行政サービスセンターにはかなりの空きスペースがあるので、他の機能を複合したり、民間企業や団体に貸して有効活用してはどうか。規模の縮小や廃止も選択肢としてはありうる。
- 婦中行政サービスセンターは、駐車場が足りていないように思う。

ご意見募集

ワークショップに参加される方だけでなく、多くの婦中地域の皆様のご意見を今後の計画に反映させたいという考えのもと、ご意見を募集します。

- ワークショップで検討されている内容について
- 婦中地域のまちづくりや公共施設について

下記の「お問い合わせ先」まで、メール・ファックス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

皆様のご意見を
お待ちしております！



お問い合わせ先

富山市企画管理部行政経営課
電話：076-443-2021
ファックス：076-443-2170
E-mail：gyousei-01@city.toyama.lg.jp

公共施設マネジメントに関する情報

富山市の公共施設マネジメントに関する情報はHPでご紹介しています。

<http://www.city.toyama.toyama.jp/kikakukanribu/gyoseikeieika/sougoukanrikeikaku/sougoukanrikeikaku.html>